

聖書の解釈、科学の解釈

1、「聖書+科学」の解釈と体験の例 ... 教会の本を休会のため返せず。「御心は？」→ 聖霊「その本を読みこの題で書け！」→ 肉的欲求ではなく聖霊に耳を澄ます人生。(2022.1.16.Sun/本:坂野恵吉著「創世記」/題:上記)

2、「彼らをよく知りたい」とは、同性愛を意味している(p238)。という聖書解釈は、「人はその妻エバを知った」の「知る」は性的な関係を結んだという意味である(p94)。という箇所からきている。「知る」は性の関係が単に肉体の結びつきではなく、人格(霊)の関係であることを意味する...と、ここまで解釈ができていながら、「善悪を知る」「裸であることを知る」も性的な行為の結果であらうという解釈をするのは容易なはずである。ユダヤ民族が割礼の儀式を固く守ってきたのも、そこに信仰の根源があるからである。しかし教会は、「善悪の知識の木から食べる」は「科学的植物の木」であるという解釈を固持している。「あなたがたには天の御国の奥義を知ることが許されていますが、あの人たちには許されていません。」(マタイ13:11)

3、「山に逃げなさい」...ロトの不信仰は大変な結果をもたらした。彼の二人の娘は結婚の望みを絶たれたため...(p243)。ロトの親子は罪の多い「ソドムとゴモラ」から少ない「小さい町」そして(罪のない)山に逃れた。そこで行われた親子間の生殖行為は、果たして罪に定められるものだろうか？山は神の導きがあった所であり、神が親子とともにいてくださったと考えるのは自然な解釈である。生殖行為も、娘が自らの肉的欲求に従ったのではなく、聖霊の教えに従ったものに違いないと解釈するのが、正しいと思われる。それは、モアブ人やアモン人には、神様の祝福が用意されていたということからもわかる。

4、本の内容からは外れるが、「出エジプト記」には次のような記述がある。主はモーセに言われた。「見よ、私はあなたをファラオにとって神とする。...アロンがあなたの預言者となる。」「私はファラオの心を頑なにし、...エジプトは、私が主であることを知る。」これはこの時代に限らず、主が預言者や牧師を用いて、人々や私たちを主に返らせようとしてきた継続的な働きであると解釈することもできる。ファラオを通して、私たち人間が主に対していかに頑なな心を持っているか、ということを知るのである。

イスラエル民族に目を移すと、人々はモーセとアロンに導かれて紅海を渡り、人生の危機を乗り越える。これは、主への回心また受洗と解釈できる。目的の地カナンは天国、そこに至る荒野の道は、受洗後の苦難と迷いである。

しかし、カナンに着いても人々は神ではなく王の支配を求めた。外敵からの安全や生活の豊かさなど、肉的な欲求に囚われていたからである。イスラエルの民は、預言者の言葉やダビデの信仰、ソロモンの栄華等を通して神への信仰も物質的な祝福も十分経験し、何が罪であるかも理解していたが、それでも滅んでしまった。

イスラエルの民に欠けていたのは、「神の愛」を理解し「隣人愛」として実践する心だった。(あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。私は主である。レビ記19:18)実際、ダビデは不倫の罪をいくつも犯し、自分の子どもと良い親子関係を築くことができなかつたし、ソロモンも異教の女を財宝のごとく妻に迎えたので、その子どもたちも愛を学ぶことはなかった。つまり、神の求める「愛」が何かを知らなかつたのである。それを身をもって教えるために降誕されたのがイエスキリストであり、人の霊の教育係としてこられたのが聖霊である。(…聖霊はあなた方にすべてのことを教え…。ヨハネ14:26)

5、聖書のこの解釈は、私が聖霊から教えていただいたことを私の言葉で表現しているものであり、私自身においては正しいと信じている。しかし、それを他の人に「強制する必要」はない。それが確かに聖霊からのものであれば、他の人も同じ聖霊を教育係に持っており同意を得るだろうからである。

この解釈の意義は、教会の教理に従えば、人の人生は毎日が罪との闘いになるが、私のこの解釈では、神様の愛を学び実践していけば、罪を治めることも永遠の命である神様に繋がることも不可能ではなくなるということである。

6, 教会には、異端審問という制度や歴史があり、それによって有罪判決を受け追放されたり幽閉また処刑されたりというところが行われた。「それで地球は動く」と獄中でつぶやいたとされるガリレオの裁判が有名である。かれは、敬虔なカトリック教徒であったにも関わらず、科学については教会の権威に盲目的に従うことを拒否し、哲学や宗教から科学を分離することを主張した(Wikipedia)。

ガリレオは、物体の運動の研究をするときに実験結果を数的に記述し分析するという手法を採用した。この手法は既存の理論体系や学説に盲目的に従うのではなく、自分自身で実験し確かめるという方法で、「科学の父」と呼ばれている。データ重視の研究や理論形成は、現代科学の中心である。

教会は聖書を解釈して教義を作成し信徒に教える。科学は実験データを解釈して理論を形成し社会に提供する。ここで科学は、実験データの取得もその解釈もだれでもが参入し発表することができる。結果の承認や否定も互いに指摘できる。しかし教会は、信徒と非信徒に分け、個人の自由な解釈も発言も許さない。これで教会の聖書解釈の正しさを保障することができるだろうか。実際、異端とされる宗派が多数乱立している状況がある。

7, 歴史的・科学的事実と言われていることにも謙遜に耳を傾けなければならない。それらは、また新しい発見などによって変えられる可能性を持っている...。P128

科学的真実に関しては、科学者の中にはデータの捏造という問題がある。日本でも、小保方さんの「STAP細胞の発見」にはデータ捏造があったということが大きな話題になったし、ガリレオも地動説の証拠として満潮を上げていたが、そこには間違った解釈も存在した。現在の新型コロナウイルスの発生源についても、自然発生説と人工説が対立する中、それを解明するためのデータ提供を中国に拒否され、限られたデータで検証を進めている。

8, 神は今、忍耐をもって人々の悔い改めを待っておられるが、やがて...主イエスの再臨と神の裁きの日が来ることをしっかり心に留めておかなければならない。P130、この文は、「人がアダムの罪によって墮落し、キリストによって贖罪され、裁きのためにキリストが再臨する」という聖書理解と教義を受けて述べられたものである。だから、私が先に述べたように別の解釈をすれば、結論も異なってくる。神様が何を真実としているかは、神様に聞くべきである。

歴史や科学においても、何が真実かは明確でない場合が多い。先の新型コロナウイルスの発生源の解明もそうであるし、帝国主義と一体化したキリスト教布教が人類にとって善であったのかも、明確な答えは出てこない。

米バイデン大統領の「パンデミックでマスクをしない、ワクチンを打たないのは科学を知らないネアンデルタール人だ。」という発言は、マスクの効果やワクチンの副作用など多くの否定的なデータがあることを無視し、科学至上主義を利用した宗教批判と政治的発言をしているにすぎない。つまり、科学的真実が何であるかにはあまり関心がなく、自分の左翼的「解釈」を主張しているだけである。

9, さらに気を付けなければいけないのは、中国のような全体主義国家と米民主党の社会主義思想である。

例えば中国は、自国のパンデミック対策が成功したことを誇示するため、コロナ感染者数や死亡者数のデータを小さく報道し、米左翼は都市封鎖やワクチンの義務化等強制力を行使するため、データを大きく報道し不安を煽っている。歴史を見ても、共産主義革命という目的のためには、情報統制や宗教、言論の弾圧、資本家の大量虐殺等手段を選ばなかった。力こそが正義であり、歴史的科学的事実や真理は、権力者の解釈次第ということになる。出エジプト記のファラオは権力者の心の頑なさを表している。教会こそは権力を行使せず身を低くしてほしい。